

大学院サステナビリティ学教育プログラムの演習科目として、茨城町にて「国内実践教育演習」（2017年6月20日～22日）を行いました。

茨城町において「国内実践教育演習」（2単位）のフィールドワークを2017年6月20日（火）～22日（木）の3日間実施しました。

茨城町と茨城大学人文学部は、2013年1月に地域連携協定を締結し、さらに2016年3月には、茨城町と茨城大学全学との連携協定を結びました。プロジェクトとしても、2014年度から2016年までの3年間、本学の「戦略的地域連携プロジェクト」を実施し、茨城町の地域資源の利活用を探る活動を行ってきました。

本演習は、これら地域連携やサステナビリティを考える演習の一環として実施してきました。今年度は、学内の4研究科すべてから参加学生を募り、9名の大学院生が参加しました。また、今年も「国際実践教育演習」を共同で実施しているタイ・プーケット・ラチャパット大学より学生7名、教職員9名の計16名が昨年に引き続き来日し、演習に参加しました。県央に位置する茨城町の豊かな地域資源に触れる演習となりました。

1日目は、大学にて「茨城大学国際交流ワークショップ」を開催しました。プーケットでのこれまでの国際実践教育演習での取り組みやプーケットでの廃棄物問題、ICASでの気候変動およびサステナビリティ学研究について、報告・議論を行いました。その後、茨城町に移動し、「ひろうら田舎暮らし体験推進協議会」が中心となって行っている民泊プログラムへと参加し、茨城町で2泊のホームステイを体験しました。

2日目は、茨城町でリサイクルを行っている株式会社リーテムのリサイクル工場を見学し、里山保全活動を行っているNPO環~WAのフィールド活動に参加しました。国内だけでなく、タイ・プーケットでも課題となっている廃棄物問題とも関連づけながら、循環型社会について考えました。

3日目は、茨城町の民泊体験プログラムに参加し、2015年にラムサール条約に登録された涸沼でのイカダ体験や郷土料理である花巻寿司の体験を行いました。涸沼の自然と文化に触れることができました。

2014年から茨城町で始まった本演習は、本年度で4回目の実施となりました。タイ・プーケット・ラチャパット大学が初めて演習に参加するなど、連携が進んできました。来年度もさらなる協働を目指していきます。



プーケット・ラチャパット大学訪日団による学長室訪問



ワークショップでの集合写真



茨城町で民泊体験プログラムに参加



廃棄物問題等について、ワークショップを開催



リーテムのリサイクル工場を見学



NPO 環~WA の里山を見学



郷土料理・花巻寿司体験



間伐材の破碎体験



茨城町、プーケット・ラチャパット大学訪日団の参加者と一緒に集合写真



ラムサール条約に登録された潤沼でイカダ体験